

《中学校・英語》

I 学力診断テストの概要

1 「群馬県教育課程実施状況調査」等に見られる本県生徒の課題

(1) 4 観点の正答率について

コミュニケーションへの関心・意欲・態度：79.7%、表現の能力：46.6%、理解の能力：73.1%、言語や文化についての知識・理解：58.6%

このことから、本県の生徒は、表現の能力に課題があることが分かる。

(2) 他のつまずきの傾向について

- ・トピック指定問題、条件指定問題、文構造問題の正答率が 50%を下回っている。
- ・代名詞、形容詞や副詞の比較変化、不定詞を用いての表現には語順や語法に誤りが目立つ。
- ・主語＋動詞＋間接目的語＋名詞の文型、後置修飾などの文法事項に関わる知識・理解が不十分である。

(3) 学習指導要領の目標との関連について

外国語科の目標には、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するとあるが、書く力を育成する活動を通して、聞いたり話したりする力も有機的に関連し合いながら、一層の向上が図られる。

2 出題領域と各設問の設定意図

領域	各 設 問 の 設 定 意 図	
表現	①	コミュニケーションを図る場面で表現内容に応じて必要となる語句（単語、連語、慣用表現等）の理解や定着の程度を把握する。
	②	コミュニケーションを図る場面で、表現内容に応じて用いる文の構造や文法上のルールに関する理解や定着の程度を把握する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な文法上のルールに関する理解度を測る。（正誤選択） 2 質問の内容や意図、文脈を正確に理解し、適切に応答する能力を測る。（応答文の選択） 3 文意を適切に英語で表現する能力と、正しい文の構造や文法の理解度を測る。（適語補充） 4 対話の内容や意図、文脈を正確に理解し、正しい文構造を用いて表現する能力を測る。（整序英作文）
	③	場面や状況、話題に応じて意味の通じる文を作れるかどうかを把握する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 英語の授業中に ALT の先生に草津温泉を紹介する状況を設定する。日本語で書く内容を指定し、既習の英語を用いて適切に表現する力を測る。（英文 1 文の記述） 2 英語の授業中に ALT の先生に質問する状況を設定する。日本語で書く内容を指定し、Why、How、「What ＋名詞」で始まる疑問文の運用力を測る。（英文 1 文の記述）
	④	自分の考えや気持ちを、身に付けている語句や文を駆使してまとまりのある文章として表現することができるかを把握する。（自由英作文）

II 各設問における分析結果と授業改善のポイント

課題1 現実の状況や自己の判断に基づいた自然な対話の機会を設定し、語彙の定着を図る工夫をする。

1 具体的な問題と反応率

【反応率】

- ① 次の の条件に従って(1)～(5)の空所に適当な1語をそれぞれ書きなさい。

青木先生(Mr. Aoki)の英語の授業が始まりました。そのクラスの生徒になったつもりで、青木先生の問いかけに対する適当な応答を考えましょう。なお、応答の内容は自分自身で自由に決めて答えなさい。

Mr. Aoki : How are you today, Wataru?

Wataru : I'm _____ (1) _____. How are you?

Mr. Aoki : I'm all right. Well, what day is it today,

Junko?

Junko : It's _____ (2) _____.

Mr. Aoki : That's right. How is the weather, Hiroshi?

Hiroshi : It's _____ (3) _____.

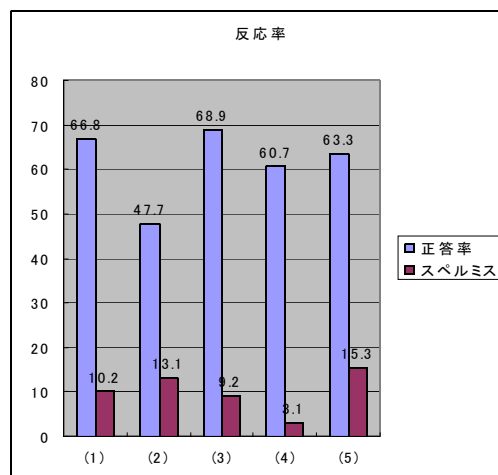
Mr. Aoki : Good. Now let's begin today's lesson. Oh,

I forgot my pen! Keiko, can I use your pen?

Keiko : _____ (4) _____. Here you are.

Mr. Aoki : Thank you very much.

Keiko : You're _____ (5) _____.



(1) 66.8% (正答)、10.2% (スペルミス)

(2) 47.7% (正答)、13.1% (スペルミス)

(3) 68.9% (正答)、9.2% (スペルミス)

(4) 60.7% (正答)、3.1% (スペルミス)

(5) 63.3% (正答)、15.3% (スペルミス)

2 課題分析結果

- 反応率の結果から、(2)の正答率が最も低いことが分かる。これは、曜日に関する問いである **what day is it today?**の意味が分からないことが一因であると考えられる。他の(1)体調、(3)天候、(4)依頼、(5)感謝の表現については、問いの意味は概ね理解できていると考えられる。ただし、応答内容を自分自身で自由に決めて答えることができるにもかかわらず、体調の答えでは **fine**、天候の答えでは **fine** や **cloudy** などが圧倒的に多く、他の表現で答える者は少なかった。また、(4)の回答では、**Yes** と答えるものが多く、**sure** など、他の表現で答える者は少なかった。このことから、授業の導入時の挨拶等の中で用いられる基本的な応答表現については、ある程度の定着が図られているものの、場面や状態に応じた多様な表現ができるかどうかという点が課題であると考えられる。
- 綴りについては、(4)以外では全て10%前後の誤りが見られる。特に、曜日の **Wednesday** に誤りの傾向が高く、(5)の正解である **welcome** も **wellcome** とするなど、長い単語にはスペルミスが見られた。口頭では表現できるものの、実際に書いて表現することに課題をも

っていることの一例であると考え。教師への質問紙の結果によると、語彙や表現を確認する小テストを定期的に行っている学校は35%程度であり、継続的に正しく書いて表現できるかどうかの確認の有無と綴りの誤りとの間には関連があるものと考え。

3 授業改善のポイント

- 授業のはじめに、体調、日付や曜日、天気、最近の出来事等について、教師の質問に生徒が応答するだけでなく、生徒側から教師側に質問したり、生徒同士で対話したりする機会を設定する。
- 綴りの難しい単語や重要表現等については、繰り返し確認したり、黒板やノートに書かせたりする。
- 単語や表現の定着を図るために、小テストを定期的に行い、正確なスペルで書けるようにするとともに、書くことへの意欲付けをさせるようにする。

課題2 言語の使用場面や働きを意識し、目的意識をもって言語材料の習熟に取り組める言語活動の工夫をする。

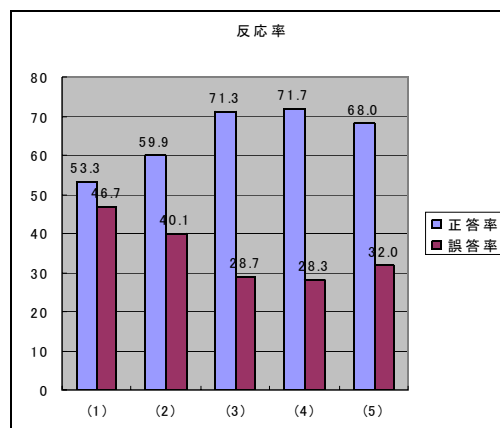
1 具体的な問題と反応率

② 次の1～4の問いに答えなさい。

1 各文の下線部に誤りがない場合はアを選び、誤りがある場合にはイ～エの中から正しいものを1つ選び、記号で書きなさい。

- (1) My brother usually go to the park to play tennis.
ア 正しい イ goes ウ will go エ is going
- (2) Kenji looked very happy yesterday because he got a birthday present from his friend.
ア 正しい イ looked at ウ looks エ was looking
- (3) Yoshiko plays the piano well than her mother.
ア 正しい イ more ウ more well エ better
- (4) There aren't any people in this room last night.
ア 正しい イ isn't ウ wasn't エ weren't
- (5) My father was watching TV and I came home from school yesterday.
ア 正しい イ when ウ if エ but

【反応率】

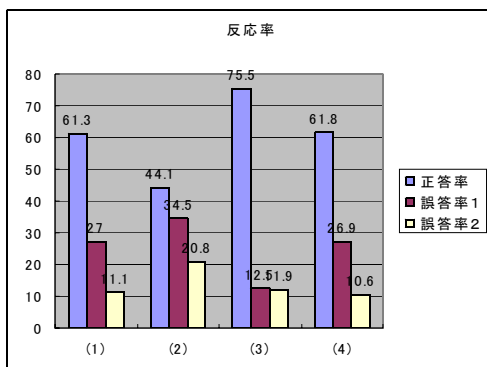


- (1) 53.3% (正答)、46.7% (誤答)
- (2) 59.9% (正答)、40.1% (誤答)
- (3) 71.3% (正答)、28.7% (誤答)
- (4) 71.7% (正答)、28.3% (誤答)
- (5) 68.0% (正答)、32.0% (誤答)

2 各組の対話文中の空所に当てはまる最も適当な文をア～ウの中から1つ選び、記号で書きなさい。

- (1) A : How did you go to Tokyo yesterday?
 B : _____ I went there in the morning.
 ア I liked it very much.
 イ With two friends of mine.
 ウ By train.
- (2) A : Where is my CD player, Father?
 B : Oh, I just used it yesterday. _____
 ア There is a CD player in my room now.
 イ Your CD player is in my room now.
 ウ It is a CD player in my room now.
- (3) A : Which is more popular in your class, soccer or tennis?
 B : Well, _____ But I like soccer better.
 ア tennis isn't as popular as soccer in my class.
 イ tennis is more popular than soccer in my class.
 ウ soccer is the most popular sport in my class.
- (4) A : Shall we go to Akihabara next Sunday?
 B : _____ I want to buy a new computer there!
 ア Good idea.
 イ Yes, you shall.
 ウ No, thank you.

【反応率】



- (1) 61.3% (正答)、27.0% (解答イ)、11.1% (解答ア)
 (2) 44.1% (正答)、34.5% (解答ア)、20.8% (解答ウ)
 (3) 75.5% (正答)、12.5% (解答ア)、11.9% (解答ウ)
 (4) 61.8% (正答)、26.9% (解答イ)、10.6% (解答ウ)

3 知子は、アメリカのホームステイ (homestay)先から届いたジェーンの手紙に返事を書きました。次の日本語の意味に合うよう、あとの英文の(1)～(5)に当てはまる最も適当な単語をア～スの中から1つ選び、記号で書きなさい。

ジェーンへ

こんにちは。あなたの手紙が届いたときはとてもうれしかったです。あなたの国での最後の日には、話をする時間がありませんでしたね。ホームステイ中に、たくさんの写真を撮りましたが、あなたと一緒に撮った一番お気に入りの写真は、今私の部屋の机の上にあります。母はときどき私に、あなたやあなたの家族についてたずねてきます。

またいつか会えることを楽しみにしています。

あなたの友人 知子より

Dear Jane,

Hello! I was very happy (1) I got a letter from you. I had no time (2) talk with you on my last day in your country. I (3) a lot of pictures during my homestay. The best picture with you (4) on the desk in my room now. My mother sometimes (5) me about you and your family.

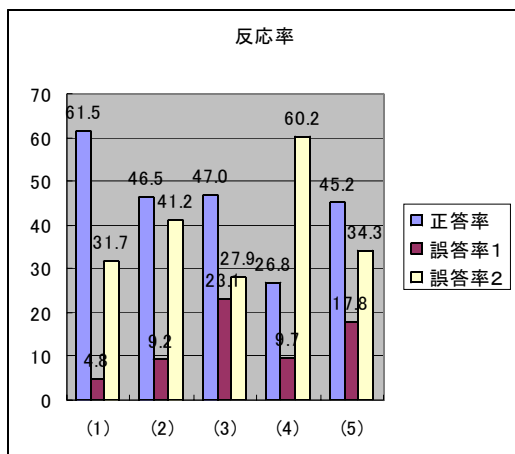
I'm looking forward to seeing you again some day.

Your friend,

Tomoko

ア if イ of ウ but エ is オ are
 カ looked キ to ク take ケ ask コ when
 サ says シ asks ス took

【反応率】

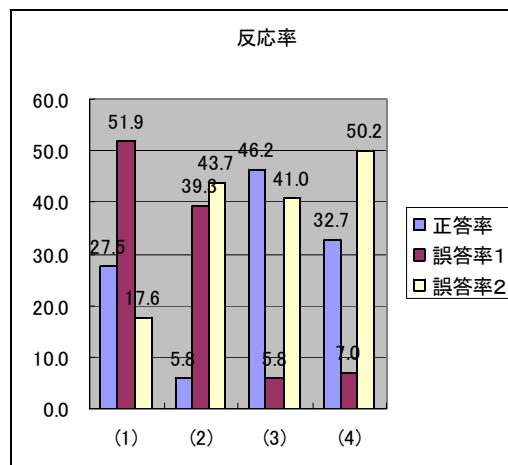


- (1) 61.5% (正答)、4.8% (解答ア)、31.7% (他の解答)
 (2) 46.5% (正答)、9.2% (解答イ)、41.2% (他の解答)
 (3) 47.0% (正答)、23.1% (解答ク)、27.9% (他の解答)
 (4) 26.8% (正答)、9.7% (解答オ)、60.2% (他の解答)
 (5) 45.2% (正答)、17.8% (解答ケ)、34.3% (他の解答)

4 各組が自然な対話文になるよう、[] 内の単語を並べかえて、書きなさい。

- (1) A : Takeshi, _____ ?
 B : I like basketball the best.
 [the like you best what do sport]
- (2) A : There are a lot of nice bags near that window!
 Do you like one of them?
 B : Yes. But the _____ .
 [on better bag table the is]
- (3) A : It's very hot today! Please _____ , Mother.
 B : OK. Here is some milk. But don't drink too much.
 [me drink give to something]
- (4) A : I want to buy that video game. Is it an interesting game?
 B : Yes. _____ very much.
 [can it I you enjoy think]

【反応率】



- (1) 27.5% (正答)、51.9% (誤答 1)、17.6% (誤答 2)
 誤答 1 : sport の位置 (what + 名詞) に誤り
 誤答 2 : 他の語順に誤り
- (2) 5.8% (正答)、39.3% (誤答 1)、43.7% (誤答 2)
 誤答 1 : on the table の位置 (形容詞句) に誤り
 誤答 2 : 他の語順に誤り
- (3) 46.2% (正答)、5.8% (誤答 1)、41.0% (誤答 2)
 誤答 1 : to drink の位置 (to 不定詞) に誤り
 誤答 2 : 他の語順に誤り
- (4) 32.7% (正答)、7.0% (誤答 1)、50.2% (誤答 2)
 誤答 1 : I think S + V の語順に誤り
 誤答 2 : 他の語順に誤り

2 課題分析結果

○ 正答率が低い問題について取り上げると、以下のような文構造や文法上のルールに課題があることが分かる。

1) 副詞が動詞の前に置かれた文の三単現の-s

1 (1)の正答率は53.3%で設問1の問題の中では最も低い。これは三人称単数現在形(三単現)の問題であるが、3 (5)も同様に、正答率は45.2%と低くなっている。両方の問題に共通しているのは、現在形の動詞の前に、usually や sometimes の副詞が挿入されている点である。三人称が主語である場合、現在形の動詞にs や es をつけることは理解していても、副詞の挿入によって混乱してしまうことが誤答の原因であると考ええる。

2) be 動詞以外の動詞(look)を用いた S+V+C の文型

1 (2)は、正答率が7割前後の問題の中で、59.9%といった比較的低い正答率になっている。誤答の中には、時制の間違いによるものもあるが、一般動詞を用いた S+V+C の文型に慣れていないことに起因しているものが多い。中学校段階では S+V+C の文型として使用する動詞は be 動詞が中心であり、一般動詞としては look 等、数が限定されているため、生徒にとってはなじみが薄いものと考ええる。

3) 人や事物の存在を表す時の、There is 構文と、主語+ be 動詞の使用場面の区別

1 (4)の正答率が71.7%であることから分かるように、人や事物の存在を表すときの表現としての There is 構文の定着度は比較的高いと言える。一方、主語+ be 動詞で存在を表す表現の定着度はあまり高くない。このことは、2 (2)の正答率が44.1%であることが示しており、**3** 1 (1)の正答率の低さも、主語+ be 動詞の用法の理解度と関連していると言える。存在「～がある」は、There is 構文で表現するものとして覚えてしまっていることに起因すると考える。

4) 前置詞を用いた形容詞句が後ろから主語にかかる文の語順

3 (4)の問題は、日本語の対訳があるため、和文英訳の問題とも言える。この日本語を読むことで、主語が何であるかが分かるようになっているが、正答率は26.8%に過ぎない。これは、主語の単複に応じた be 動詞の変化の理解に課題があるとも言えるが、前置詞の後置修飾に関する主語の適切な把握に、より大きな課題があると考ええる。また、4 (2)の問題は、対話文形式の並べかえ問題であるが、5.8%とかなり低い正答率になっている。6個の単語を並べかえる問題であるが、主語を修飾する前置詞句の扱いに慣れていないことが、誤答の原因であると推測できる。文脈に合った意味にするための、定冠詞、名詞、動詞等、語や品詞の働きや位置についての理解不足も、前置詞の後置修飾の適切な把握を困難にしていると考ええる。

5) 疑問詞 What +名詞で始まる疑問文

4 (1)の正解となる英文は、What sport do you like the best?であり、正答率は27.5%となっている。一方、誤答で最も多かったのは、What do you like sport the best?であり、51.9%の生徒がこのように解答している。すなわち、疑問文の形である do you like と最上級の表現である the best の両方については、約8割の生徒が理解し、運用できているが、What+名詞の疑問文に習熟していないことが誤答の原因であると考ええる。同様に、**3** 2 (3)の18.7%と低い正答率も What+名詞の疑問文への習熟度と関連しているものと考ええる。

6) I think S + V の複文

4 (4)の問題は、対話文形式の並べかえ問題であるが、32.7%とやや低い正答率である。与えられた6個の単語のうち、動詞が2つあり、主語になり得る名詞も3つあることから、複文になることを推定しなければならない。しかし、自分の考えや思いを英語で表現することに慣れていないことや、接続詞の **that** が選択肢にないことで混乱してしまったことなどにより、I think S+V の複文にすることができなかつたようである。同様に、**3** 1 (2) の正答率の 15.8%、無回答率の 40.7%も、I think S + V の複文の習熟に課題があるためと考える。

3 授業改善のポイント

- 言語の使用場面や働きを意識しながら十分に口慣らしする時間を確保し、正しい文構造や文法事項の理解に効果的な練習方法を工夫する。
- 文構造や文法事項の定着に効果的であると判断できる場合には、まとめの段階で、語順の規則や基本的な品詞等についてもきちんと説明する。
- まとまった英文を読む際に、文のつながりや語順を意識しながら読むように指導する。

課題3 伝えたいことや尋ねたいことを、既習の語彙や表現を駆使し、自分なりに表現させる指導の工夫をする。

1 具体的な問題と反応率

- 3** 9月からあなたの学校に新しい ALT のブラウン先生 (Mr.Brown) が来ます。以下の1と2の間に答えなさい。

- 1 あなたは、ブラウン先生に草津温泉(Kusatsu-onsen)について英語で紹介します。下の の(1)と(2)の内容になるように、それぞれ1文で書きなさい。

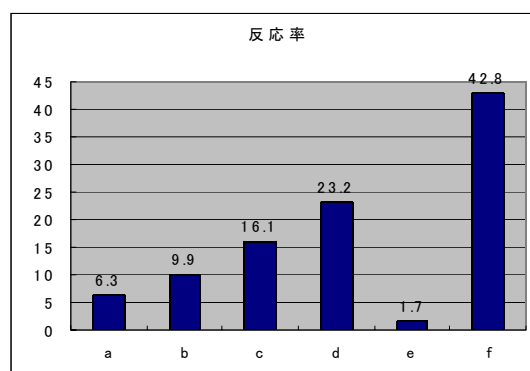
『紹介文』の原稿

Today I'll tell you about Kusatsu-onsen.
 Look at this picture.
 I visited Kusatsu-onsen with my family last year.
 I went to two different * public baths.
 I liked the small bath better.
 (1)Because _____
 * Taking baths is fun for Japanese people.
 Mr. Brown, please go there if you have some time.
 (2)_____

- * public : 公衆の
 * taking baths : 風呂に入ること

- (1) 大きい風呂が混んでいた。
 (2) 気に入ると思う。

【反応率】1(1)



- a : 内容的にも文法的にも正しく書けているもの 6.3%
 b : 中心となる文構造「混んでいた」は理解できているが、時制、前置詞、冠詞、誤りなどにわずかな誤りがあるもの 9.9%
 c : 内容的には理解できるが、中心となる文構造には誤り

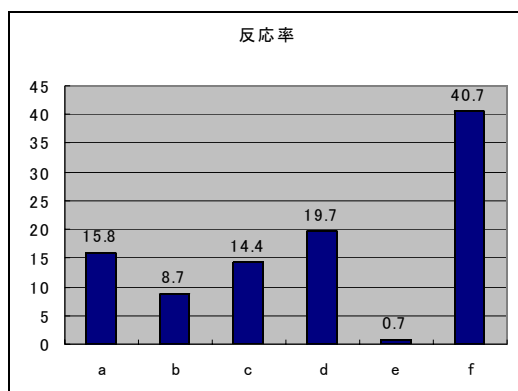
があるもの 16.1%

d : 内容的にも文法的にも理解できないもの 23.2%

e : 上記以外の解答 (日本語が書いてあるもの) 1.7%

f : 無解答 42.8%

【反応率】 1(2)



a : 内容的にも文法的にも正しく書けているもの 15.8%

b : 中心となる文構造 I think+S+V は理解できるが、時制、前置詞、冠詞、綴りなどにわずかな誤りがあるもの 8.7%

c : 内容的には理解できるが、中心となる文構造に誤りがあるもの 14.4%

d : 内容的にも文法的にも理解できないもの 19.7%

e : 上記以外の解答 0.7%

f : 無解答 40.7%

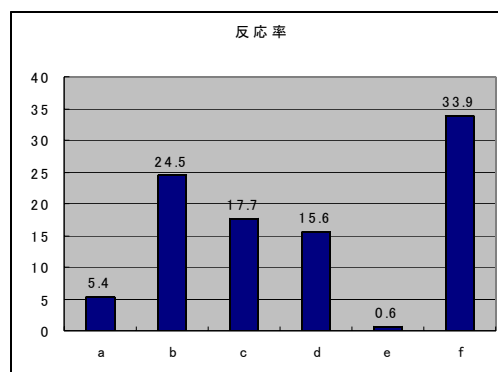
2 あなたは、ブラウン先生に次の3つのことについて英語で質問します。次の(1)~(3)をたずねる『質問文』をそれぞれ1文で書きなさい。

- (1) ALT になった理由
- (2) 学校への通勤方法
- (3) 好きな日本食

『質問文』

- (1) _____
- (2) _____
- (3) _____

【反応率】 2(1)



a : 内容的にも文法的にも正しく書けているもの 5.4%

b : 中心となる文構造「Why で始まる疑問文」は理解できているが、時制、前置詞、冠詞、綴りなどにわずかな誤りがあるもの 24.5%

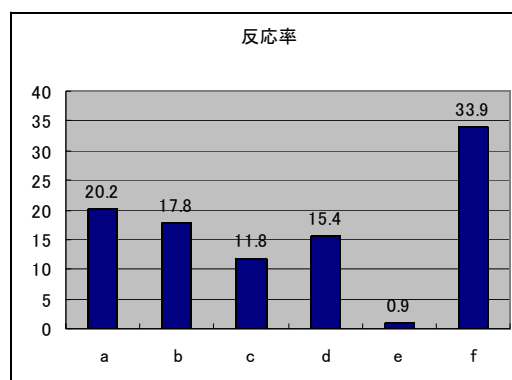
c : 内容的には理解できるが、中心となる文構造に誤りがあるもの 17.7%

d : 内容的にも文法的にも理解できないもの 15.6%

e : 上記以外の解答 0.6%

f : 無解答 33.9%

【反応率】 2(2)



a : 内容的にも文法的にも正しく書けているもの 20.2%

b : 中心となる文構造「How で始まる疑問文」は理解できているが、時制、前置詞、冠詞、綴りなどにわずかな誤りがあるもの 17.8%

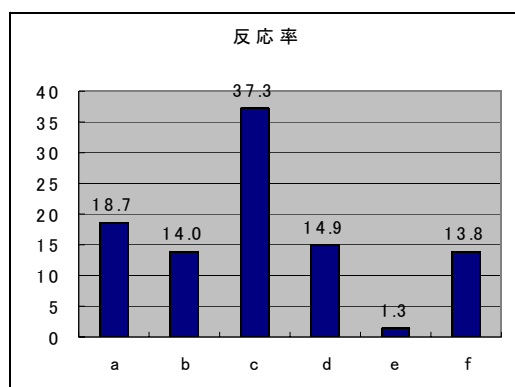
c : 内容的には理解できるが、中心となる文構造に誤りがあるもの 11.8%

d : 内容的にも文法的にも理解できないもの 15.4%

e : 上記以外の解答 0.9%

f : 無解答 33.9%

【反応率】2(3)



- a : 内容的にも文法的にも正しく書けているもの 18.7%
- b : 中心となる文構造「What(+名詞) で始まる疑問文」は理解できているが、時制、前置詞、冠詞、綴りなどにわずかな誤りがあるもの 14.0%
- c : 内容的には理解できるが、中心となる文構造に誤りがあるもの 37.3%
- d : 内容的にも文法的にも理解できないもの 14.9%
- e : 上記以外の解答 1.3%
- f : 無解答 13.8%

2 課題分析結果

○ 日本語で指定された内容について、場面や状況、話題に応じて既習の英語を用いて意味の通じる文を作る問題である。

1) 1 (1)の「大きい風呂が混んでいた」を英語で表現する問題では、42.8%が無解答であった。これは、混んでいるという単語 **crowded** を思い浮かべないために表現することをあきらめてしまったことが原因であると考えられる。日本語を英語に直す際に、知らない表現があっても、何とか自分の知っている語彙を駆使して表現することに慣れていないと言えよう。例えば、「混んでいた」を「人がたくさんいた」と解釈することも可能であり、**crowded** を使わずに表現すると、以下のような表現が考えられる。

例 : there were a lot of(many) people in the big one(onsen, bath).

例 : the big one had a lot of people in it.

例 : a lot of people were in the big one.

例 : a lot of people enjoyed taking the big bath.

例 : a lot of people took the big bath.

また、日本語を英文にするのには何通りもの表現が可能であることを生徒に理解させることにより、英文を作ることへの抵抗感を少なくすることも大切であろうと考える。

2) 1 (2)の「気に入ると思う」を英語で表現する問題では、40.7%が無解答であった。これは、「気に入る」を意味する単語としては **like** が考えられるが、**like** の意味は「好きである」と暗記している場合は英語にすることに困難を感じるであろう。さらには、「気に入ると思う」の日本語には主語が省略されているため、「私は、あなたがそれを気に入ると思う」と解釈しないと **I think you (will) like it.** とすることはできないであろう。このように、無解答は、自分の知っている語彙に置き換えたり、日本語にありがちな主語の省略を補ったりすることに困難を感じていることによるものと考えられる。なお、「気に入る」を **like** を使わずに表現すると、以下のような表現が考えられる。

例 : I think (that) you (can) enjoy it (onsen).

例 : I think you (will) have a good time.

例 : I think you will find taking baths is very nice.

したがって、日本文を英文にする際に、日本語と英語の表現方法の特長や違いを理解させながら、自分の考えや思いを幅広く表現させる練習を積み重ねることにより、自己表現に対する抵抗感を少なくすることが重要であろうと考える。

- 3) 2は、(1)「ALT になった理由」、(2)「学校への通勤方法」、(3)「好きな日本食」に関して、質問文を作る問題である。これらに共通しているのは、適切な疑問詞を用いて表現することができるかどうかである。疑問詞としては、(1)Why (2)How (3)What を用いることになるが、正答率がそれぞれ 5.4%、20.2%、18.7%、無解答が 33.9%、33.9%、13.8%である。外国語指導助手 (ALT) はほとんどの学校に配置されているが、ALT の質問に答える学習に比べ、ALT に対して自分から質問する機会がそれほど多くないことも一因であると考えられる。また、疑問詞はわかっても、時制、前置詞、冠詞等に対する理解と運用能力に課題があるため、正確な英語表現にすることができないことが考えられる。

なお、正解としては、以下のような表現が考えられる。

例：Why did you become an(the) ALT?

例：How do you come to our(my) school?

例：What Japanese food do you like? / What is your favorite Japanese food?

3 授業改善のポイント

- 伝えたい事柄をまず日本語でまとめ、それを基に英語で表現する活動において、既習の語彙で直訳できない時には、安易に教師や辞書に答えを求めることなく、同様の内容や意図が伝わるような別の表現方法を工夫してみるよう働きかける。
- 生徒同士で英語でやりとりする場面において、「説明する」「報告する」「質問する」「依頼する」など言語の機能を意識しながら、コミュニケーションの目的を達成できるような活動を工夫する。

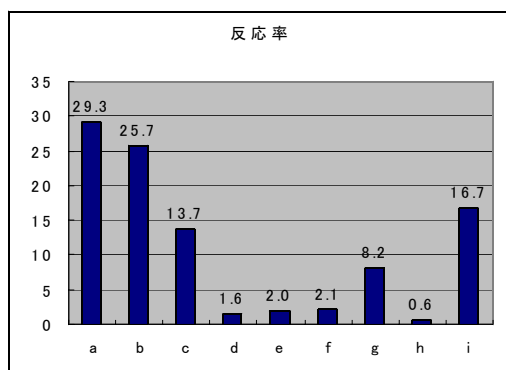
課題4 自分の思いや考えをまとめた文章で表現する言語活動を段階的・系統的に設定する工夫をする。

1 具体的な問題と反応率

4) あなたは、英語の授業で、身近な人について紹介することになりました。家族や友達など、自分の身近な人の中から紹介したい人を一人選び、4文以上の英文で書きなさい。ただし、書き始めは、“I'm going to * introduce (紹介する人).” とし、その文は4文中には含めません。

* introduce：紹介する

【反応率】



- a: 英語で4文以上書いているとともに、紹介文として理解でき、内容のつながりがよいもの 29.3%
- b: 英語で4文以上書いている、紹介文としては理解できるが、内容のつながりがやや悪いもの 25.7%
- c: 英語で4文以上書いているが、紹介文として理解できず、内容のつながりが悪いもの 13.7%
- d: 英文で3文書いているとともに、紹介文として理解でき、内容のつながりがよいもの 1.6%
- e: 英語で3文書いている、紹介文としては理解できるが、内容のつながりがやや悪いもの 2.0%
- f: 英文で3文書いているが、紹介文として理解できず、内容のつながりが悪いもの 2.1%
- g: 英語で2文以下しか書いていなかったり、英語の単語（語句）が書いてある程度のもの 8.2%
- h: 上記以外の解答（日本語や文字などが書いてあるもの） 0.6%
- i: 無解答 16.7%

2 課題分析結果

1) 家族や友達など、身近な人について紹介する英文を4文以上で書く問題である。この問題では、内容的に一貫した文章を書くことができるかどうか重点を置き、時制、前置詞、冠詞、綴りなどの誤りは、書こうとした文の意味が理解できれば許容した。

内容的に一貫した文章の判断としては、以下の3点を考慮した。

- ・一貫して同一人物について紹介されており、他の人の紹介等に脱線しないもの
- ・同じ内容の文を繰り返したり、脈絡のない事実の繰り返しに終始したりしていないもの
- ・内容理解に支障を来すような、文法上の誤りがないもの

まず、紹介文が身近な人であるため、生徒にとっては書きやすいテーマであったためか、無解答が16.7%、日本語や文字などが書いてあるものが0.6%であり、82.7%の生徒は何らかの英文を書こうとしていることが分かる。また、4文以上書いている生徒の割合は68.7%であり、多くの生徒は量的には概ね満足の状態の英文を書くことができていると言える。4文以上書けなかった生徒に記述させた、「書けなかった理由」からは、書きたい内容はあるものの、単語や文法が分からないために英文にすることができないとする割合が圧倒的に多いことが分かる。

2) 量的には概ね満足の状態である生徒も、一貫した英語の文章を書くことにおいては、課題がある。たとえば、紹介文として理解でき、内容のつながりがよい英文の例として以下の文が考えられる。

例：I am going to introduce (my father).He is 43 years old. He is a teacher. He teaches math at junior high school. He likes fishing. I sometimes go fishing with him. I like him very much.

自分の父親についての紹介文であるが、紹介したい人を（ ）の中に入れ、この文を数えずに4文以上の英文を作ることになっている。例文は、父親の年齢、職業、趣味、私と父親とに関する事等、様々な情報が含まれていて、自然な展開になっていると言える。

- 3) 4文以上の英文が書いていても、内容のつながりが悪い文章や紹介文としては理解できないレベルの文章もあった。内容のつながりが悪い文章としては、以下のような例が見られた。

例：I am going to introduce (my father).He likes soccer. His favorite sport is soccer. He plays baseball every Sunday. My father likes apples.

この文章は、父親の好きなスポーツの情報ばかりであるため、論旨の展開に発展性がない。また、最後の文では、すでに使用した単語である like を用い、唐突に好きな果物の情報提供となっている。そのため、紹介文としては理解できるものの、内容のつながりのある文章になっているとは言えない。

- 4) 紹介文としては理解できないレベルの文章としては、以下のような例が見られた。

例：I am going to introduce (my father).He likes soccer. My mother likes soccer, too. I play soccer every day. I wanted to play soccer with him.

この文章は、サッカーの情報に終始しており、父親の紹介文のはずであるが、母親の情報も含まれている。しかも、動詞も like と play を繰り返し使用しており、情報量も少ない。そのため、内容のつながりも悪く、紹介文としても理解できない文章となっている。

このように、紹介文として理解でき、内容のつながりがよい文章にできないのは、運用できる語彙の量の不足や、文を適切に組み立てる文法事項の定着度の低さが原因であると考えられる。また、実際にテーマを決めて、自分の気持ちや考えを自由に表現する機会も十分ではないことが考えられる。さらには、伝えたい内容を英語にする時には、難しい日本語を直訳しようとするのではなく、必要に応じて、自分の知っている語彙で表現できるような日本語に言い換え、それを英語に直すといった段階を踏むことも必要なことであると考えられる。

3 授業改善のポイント

- 身近な生活から話題を選んで、自分の思いや考えを表現するなど、日常生活の中から話題や書く内容を選び、まとまりのある英文で書く活動を3年間の指導計画に意図的・計画的に位置付ける。
- 小さな文法的な誤りはある程度許容し、内容のまとまりや文のつながりの視点から助言しながら、英語の文章を書き上げる充実感を味わわせる。